

人口減少社会に 中山間地域は生き残られるか?

岐阜県立森林文化アカデミー

八尾 哲史

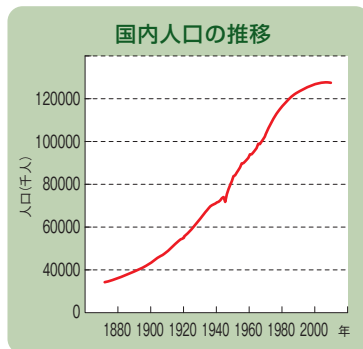
わが国は、2008年をピークに人口が減少に転じました(総務省統計局)。本格的な「人口減少社会」の到来です。識者によれば、産業革命以降、先進国と称される国で人口が中長期的に減少の一途をたどっていくのは、日本が最初なのだそうです。全世界的に「未知」のゾーンに踏み込んだ、「超先進国」といえるのかもしれませんが。

●人口減少社会と少子高齢化社会

「人口減少社会」によく似た状況を表す言葉として「少子高齢化社会」があります。この2つの言葉は、一見同じ現象を表現しているように思われますが、その中身は少し違います。

「少子高齢化社会」は子どもが少しか生まれず人口全体の平均年齢が年々上昇する社会。「人口減少社会」は単純に生まれてくる子どもの数より亡くなる人の数の方が多いため人が減る社会。ちょっと違いますね。

例えば、第二次世界大戦は日本に「少子高齢化」ではない「人口減少」をもたらしました。江戸時代にも、食糧生産能力が飽和状態に達し、人口が減る経験をわが国はしています。けっして人口が減る経験そのものが初体験というわけではありません。



●国レベルの人口減少社会のメリット、デメリット

「人口が減る」ことそのものはたしてどんな問題を引き起こすのでしょうか?

国としては「少子高齢化」が引き起こす問題(若年労働人口の減少、高齢者医療・福祉を支える若年層の減少、活力ある社会の喪失など)を防ぐために、この問題の担当大臣まで置いてその対策にあたるほどの熱のいれようです。国全体の舵取りを考える上ではそれは重要なことです。ただし、もし今すぐに対策の効果が現れたとしても、残念ながら人口減少を食い止めるには間に合わず、人口減少社会は確実にやってきます。

しかしながら、人口減少のみに視点を絞ると、それ自体はけっして悪いことばかりだとはいえません。メリットとして「受験戦争の緩和」「ゆとりの増加(一人当たりの居住面積の拡大、過密に伴う問題の改善、余暇時間の増加)」「各自給率の上昇」「環境破壊の減少」などがあげられます。また、デメリットとしてあげられている「労働人口全体の減少」は社会的定年の引き上げにより、「優秀な人材の競争戦の激化」については外国からの優秀な労働者の積極的な受け入れなどにより対応できる、ともされています。

以上のように、人口減少は当面確実に不可避でありつつもメリットもけっして少なくないことを考えれば、それ自体を多くの公金を投入して「全力を挙げて回避すべき事態」なのではなく、現代日本社会の辿る「当然の帰着」であると捉え、事態の到来に対し今から着々と準備し対応する方が賢いのでは、というのが私の考えです。

●人口争奪時代がやってくる

地域レベルで見ると、人口減少時代の当然の結果として、市町村において壮絶なる人口争奪が起こることは確実でしょう。いや、もしかするともう少し小さい単位、つまり「集落単位」での人口争奪も激化するかもしれません。

中山間地域は、高度経済成長期からずっと「人口減少社会」への対応を迫られ続けてきました。過疎対策としてさまざまな手が打たれ、内発的な工夫が多く積み重ねられてきた、いわば「先輩地域」です。こうした努力は、残念ながらそのすべてがうまくいったとはいえませんが、失敗の経験も含めそうとう多くの経験を積み学習してきた、いわゆる「社会実験先進地域」ともいえるでしょう。

中山間地域で生きる素晴らしさ、楽しさ、心地よさ(十大大変さ)を対外的に訴えるための準備は、長年の過疎対策(失敗事例も含めて)を通して整ってきているはずで、もしその準備が整ってないとすれば、今までの過疎対策から何も学んでいない、壮大なる税金の無駄遣いといわれるでしょう。

人口争奪競争に勝つための準備は、中山間地域の方が都市部の市町村・地域より遥かに先にいっているはずなのです。その積み上げてきたものを、全力で活かさねばならない時代がいよいよ本格的にやってきます。そこでのポイントは、「いかに開かれた地域をつくっていくか」につきますのでは、と私は考えています。

●「開かれた地域」とアカデミーが果たす役割

私のいう「開かれた地域」とは、ただただ外部の人を快く受け入れる地域、という意味ではありません。そこに住むみなさんが、まずは互いにできるかぎり心を開く。そして、今の地域のことをより深く知る。さらに、これからの地域の姿について語り合いながら、従来山村が持っていた「みんなで地域をつくる」という気持ちを再確認する。そして、そんな地域の気持ちに寄り添うことのできる外部の人には、積極的に快く門戸を開く…そんな「内にも外にも開かれた地域」のことをさせています。冷たい話に聞こえるかもしれませんが、「開かれた地域」をめざすことのできない地域には、残念ながら消滅する道しか残されていないでしょう。

森林文化アカデミーでは、平成23年度から「山村づくり講座」を開設し、中山間地域の未来をみなさんと一緒に切り開く人材の育成に本格的に着手します。本校のこの試みが、「開かれた地域」をめざそうとするみなさんのために、少しでもお役に立てることができればいいな、と心から願っています。